

# 2026年度 入学試験問題

## 国語

( 6 0 分)

〔 注 意 〕

- 
- ① 問題は㊦～㊴まであります。
  - ② 解答用紙はこの問題用紙の間にはさんであります。
  - ③ 解答用紙には受験番号、氏名を必ず記入のこと。
  - ④ 各問題とも解答は解答用紙の所定のところへ記入のこと。
  - ⑤ 各問題とも特に指定のない限り、句読点、記号なども一字に数えること。
- 

西大和学園中学校



問題は次のページから始まります。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。ただし、出題にあたり一部表記を改めています。

嘘をつくとは何をすることでしょうか。こう問われたらどう答えるでしょう。「嘘をつくとはだますことである」という答えはどうでしょうか。比較的<sup>かく</sup>自然に聞こえるのではないのでしょうか。しかし、立ち止まって考えるべきことがたくさんあります。まずここから始めましょう。

例えば、私が街を歩いていると、欲しかったブランド物の靴<sup>くつ</sup>が安く売られており、喜んで買ったとしましょう。しかし、家に帰ってよく見ると偽物<sup>にせ</sup>であることが、ハンメイ<sup>①</sup>しました。この時、私は「だまされた」と悔<sup>くや</sup>しがるでしょう。だまされたのはこの店の店員であり、だまされたのは偽物を買ってしまった私です。しかし、この時、私は「嘘をつかれた」と思うのでしょうか。あるいは、友人にその経験を話するとき、「あの店でだまされた」とは自然に言えそうですが、「あの店で嘘をつかれた」と言うのは不自然な感があります。

この場合と次の場合を比較してみしましょう。私が街を歩いていると、ブランド物を扱う店<sup>あつか</sup>があり、店員が「その靴は〇〇「ブランド名」製ですよ。今日は特別価格ですよ」と声をかけてきました。喜んで買いましたが、家に帰ってよく見ると偽物であることが分かりました。この時、私は「だまされた」と思うだけでなく、同時に今回は「嘘をつかれた」とも思うでしょう。

二つの例の違いは何でしょう。お分かりの通り、第一の場合には店員は何も言わなかったのに対して、第二の場合には店員が言葉<sup>ことば</sup>を発しているという違いがあります。第一の場合、店員はたしかに私をだましはしたけれど嘘をついたわけではなく、第二の場合、店員は私をだまただけでなく嘘もついていた、という違いがあります。

一方で、第一の場合の店員が示しているように、嘘をつかなくてもだますことは可能です。他方で、嘘をついたもののだますことはなかった、ということも可能です。第二の場合において、私は、店員に「その靴は〇〇製ですよ」と声をかけられましたが、その店員の口調<sup>くこう</sup>やキョドウ<sup>②</sup>などから察してその発言を嘘だと見破り、結局、だまされなかった、ということがあります。この場合、店員は私をだますことはできませんでした。しかし、嘘をついたことには変わりありません。

以上から、<sup>1</sup>嘘をつくこととだますことは等しくないことが分かります。嘘をつくことはだますことと言い換<sup>か</sup>えられる何かではないわけです。

嘘とは何かという問いを扱う際に、嘘をつくこととだますことの違いを問うというやり方は哲学<sup>てつがく</sup>ではよくあるやり方です。嘘の場合に限らず、哲学では、「□□とは何か」「□□をするとは何をすることか」などといった根本的な問いを扱うことが多くあります。こうした問いを前にすると、いかにも抽象<sup>ちやうしょう</sup>的な問いであり、哲学は「答えのない問い」を問う学問なのだといった感想をもつ人が少なく

ありません。たしかに最初から正解のある問いを問うているわけではないというのはそうでしょう。しかし、全く答えのない問いを問うているというわけではないので、この機会に確認しておきたいと思います。

□に嘘を入れるのであれば、幸福や友情を入れるのであれば、たしかに「□とは何か」という大きく開かれた問いは、イエス・ノーで答えるアンケート項目のように狭い問いではありません。それゆえ、そのままではどう答えればよいのか途方に暮れても無理はありません。しかし、哲学的に考えようとするなら、こうした大きな問いにタメ<sup>③</sup>に答えるためのさまざまな工夫が必要であり、その工夫を知っておくことが大切です。

例えば、類似の概念を並べるのはそうした工夫の一つです。嘘をつくとは何をすることかを問うために、だますことという類似の概念との比較検討を行うわけです。それによって嘘をつくことは何をするとか、あるいは何をするではないのかが、多少なりとも明らかになることが期待されます。同じことは、例えば、「友情とは何か」を問う際に、友情と恋愛のの違いや友達と恋人の違いは何かを問うとか、「幸福とは何か」を問う際に、幸福な人生と価値ある人生は等しいかを問うなどという場合にも当てはまります。

他にも、類似の概念を並べるのではなく、反対の意味をもつ概念を並べるなど、大きく開かれた問いにさまざまな角度からアプローチする方法があります。例えば、「愛とは何か」を問う際に、愛と憎しみを並べて両者の関係を考えるなどです。

嘘をつくこととだますこととは別物だということは明らかになりました。けれど、そもそも両者を比較検討したのは両者が類似しているからであり、深く考えないと両者はイコールで結べるように思えてしまうからでした。そうだとすると、両者の概念の間には相違点<sup>④</sup>だけでなく、ミッセツな関連性があるはず<sup>④</sup>です。

では、嘘をつくこととだますこととはどのように関連しているのでしょうか。この点を明らかにするために、まず、だますとはどういうことかを考えておきましょう。先の店員は、二つの場面において、無言であるか嘘をついたかはともかく、私をだまそうとしていました。

店員は、その靴が〇〇製の靴であると自分では信じていないのに、私にはその靴が〇〇製の靴であると信じさせようとしていたのです。別の言い方をすれば、この店員は自分では真でない（偽である）と信じていることを私には信じさせようと意図していたのです。すると、だますとは、（自分では）<sup>①</sup>だ<sup>①</sup>と信じていることを相手に信じさせること<sup>②</sup>だと言えるでしょう。私は、その店員が<sup>②</sup>だ<sup>②</sup>と信じていることを<sup>③</sup>である<sup>③</sup>と信じ込み、<sup>④</sup>だ<sup>④</sup>と信じた内容に基づいてその靴を買うという行為<sup>④</sup>をしてしまったのです。

店員は私をだまそうとして嘘をつきました。すると、嘘をつくこととだますこととの関係は次のように言えるでしょう。嘘をつくこと

にとつてだますことはそこで意図<sup>いづ</sup>されていることであり、簡潔に言えば、X、と。

重要なことは、一般に、意図は実現することも実現しないこともありえるということです。例えば、私が相手を喜ばせようと意図して、プレゼントを贈<sup>おく</sup>ったとします。しかし残念ながら相手はこのプレゼントを気に入らず、喜びませんでした。相手を喜ばせるという意図は実現しませんでした。私がプレゼントを贈る行為をしたことには変わりありません。同様に、店員が私をだまそうとして嘘をついたとしても私をだませるかどうかは分かりません。私が見破<sup>みや</sup>ったら、だまそうとする意図は実現されずに終わります。しかし、この意図が実現しなかったからといって嘘をつくという行為がなされなかったということにはなりません。むしろ、だまそうとして嘘をついたというその事実が浮き彫<sup>う</sup>りになり、私を怒<sup>おこ</sup>らせるでしょう。

私たちは、相手をだまそうと意図して嘘をつくことがあります。しかし、先の店員の例から分かったように、だまそうと意図してなされる行為は、嘘をつくことによって、そうでない行為によっても可能です。先の店員の第一の例において、店員は、無言で、それらしい靴をそれらしく陳列<sup>ちんれつ</sup>することによって、私をだまそうと意図していました。<sup>3</sup>嘘をつかずにだます方法はそれ以外にもいろいろあります。

例えば、私が警察官の制服を着て道に立っていると、道ゆく人は私のことを警察官だと思うかもしれませんが。実は私は、道ゆく人たちに、私は警察官だと思い込ませようと意図して、変装しており、人々が「あ、警察だ」と思って目をそらしたりするのを見て楽しんでるのです。そうした場合、私は、街中での変装によって、自分が信じていないこと（私が警察官であること）を真であると他人に信じ込ませることができています。つまり、だまそうという意図を、嘘をつかずに実現しています。このような無言の変装行為は、私が「私服警官の者です」などと道ゆく人に話しかける場合とは、やっていることが相当に異なります。<sup>5</sup>コウシャのように言葉を発して相手をだまそうとしたときには、私は嘘をついたと言われるでしょう。

（池田 喬『嘘をつく』とはどういうことか 哲学から考える』による）

#### 【語注】

（注1）概念 … ある物事について、それがどういうものを表す内容。

（注2）真 … ある主張や文章が正しいと判断できること。

（注3）偽 … ある主張や文章が正しくないと判断できること。

問一 部①く⑤のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。(かい書で、ていねいに書くこと)

問二 部1「嘘をつくこととだますことは等しくない」とありますが、なぜそのように言えるのですか。その説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人をだますことなしに嘘をつくことはできないから。

イ 嘘をつくことなしに人をだますことはできないから。

ウ 嘘をつくことなしに言葉を発することができるから。

エ 人をだますことなしに言葉を発することができるから。

オ 言葉を発することなしに人をだますことができるから。

問三 部2「類似の概念との比較検討」の例としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「平等」とは何かを考えるために、「公平」と異なっている点について考えた。

イ 「交換」とは何かを考えるために、「売買」と異なっている点について考えた。

ウ 「平和」とは何かを考えるために、「戦争」と異なっている点について考えた。

エ 「仲間」とは何かを考えるために、「味方」と関連している点について考えた。

オ 「元氣」とは何かを考えるために、「健康」と関連している点について考えた。

問四 ①く④には、それぞれ「真」か「偽」のいずれかが入る。それぞれに入る文字の組み合わせとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ① 真 ② 偽 ③ 真 ④ 偽

イ ① 偽 ② 真 ③ 偽 ④ 真

ウ ① 真 ② 真 ③ 偽 ④ 偽

エ ① 偽 ② 偽 ③ 真 ④ 真

問五

X

に入ることをもととして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 嘘はだますことの意図である

イ だますことは嘘の意図である

ウ だますことは嘘を意図しない

エ 嘘はだますことを意図しない

オ だますことは嘘を意図する

問六

——部3「嘘をつかずにだます方法」の例としてふさわしくないものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 偽物のブランド品をそれらしく並べて売っている店の店員が、「見ていってください」と声をかけた。

イ こどもとおままごとをする中で、プラスチックでできたハンバーグのおもちやを食べるまねをした。

ウ 郵便ポストそっくりに似せて作った模型を歩道に置いて、間違って手紙を入れる人を見て楽しんだ。

エ 朝の天気予報で「午後からは晴れる見込みです」と言っていたが、実際には一日中雨が降り続いた。

オ サッカーの試合中、実際には相手に体を押されていないにも関わらず、押されたふりをして転んだ。

問七

~~~~部「嘘をつくとは何をするか」といふか」とありますが、筆者は「嘘をつく」とは何をすることだと考えていますか。「だます」とは何をすることかをふまえて、五十文字以内で説明しなさい。

問八 次のAさん、Bさん、Cさんの会話を読んで、あとの問題に答えなさい。

Aさん…本文で、「類似の概念を比較する」ことについて説明されていたけど、僕は「嘘」と「冗談<sup>じょうだん</sup>」もよく似ていると思うんだ。

Bさん…確かに、どちらも「本当のこととは違うことを言う」という点でよく似ているね。

Cさん…そうかな？ 私は全然違うと思うな。だって、「冗談」は「相手を笑わせようとして、ふざけてする話」でしょ。たしか、辞書にもそんな風に書いてあったよ。

Aさん…僕もそう思っていたんだけど……。

Bさん…何か気になるの？

Aさん…この前、学校の先生が遠足の終わりに「明日はテストをするから、帰ったらしっかり勉強するように」って言ったんだよ。みんなが「えーっ！」って驚いたら、先生が「冗談、冗談。今日は疲れているだろうからゆっくり休みなさい」って言ってさ。みんな、力がぬけちゃったんだよ。

Bさん…なるほど、「明日はテストをする」という先生の発言は、「嘘」なのか「冗談」なのか、ちょっと判断に迷うね。

Cさん…簡単だよ！ 先生が「冗談、冗談。」って言っているんだから、これは「冗談」だよ。

Aさん…でも、誰も笑ってなかったし、中には「だまされた！」「先生の嘘つき！」って言っている人もいたよ。

Cさん…えーっと、じゃあ、「嘘」なのかな……。

Bさん…本文で主張されている筆者の考えをふまえると、先生の発言は「嘘」だとは言えないと思うな。ただ、冗談が下手だっただけだよ。

問題 ——— 部「先生の発言は『嘘』だとは言えない」とありますが、Bさんがこのように思うのはなぜだと考えられますか。五

十字以内で説明しなさい。

高知県で暮らす朝田家は、父結太郎、母羽多子、結太郎の父母である釜次とくら、そして結太郎の娘であるのぶ、蘭子、メイコの三姉妹で暮らしていた。そして柳井医院の寛や高といった人々も、朝田家と深く関わり家族のように支え合っていた。この場面は、転校してすぐ嫌がらせを受けていた高をのぶが守るために喧嘩をした翌朝から始まる。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「もう喧嘩したらいいかんで」

「……けれど、卑怯もんは許せん」

「この強情っぱりは誰に似いたが……」

その時、居間の奥で出張の支度を終えた結太郎がトランクの留め金を閉めて立ち上がった。

「じゃあ、留守を頼む」

のぶと蘭子、メイコの三姉妹は出張に旅立つ結太郎の周りに集まった。

「のぶ、おまんの強情っぱりはわしに似たがや」

「お父ちゃんに？」

「のぶは、そのまんまでえい子や」

結太郎は、三姉妹を見下ろして言った。

「蘭子も、メイコも、そのまんま自分を曲げんと、まっすぐ大きゅうなれ。海に向こうやったら、男に負けんばあ活躍しゅう女の人があるとおる。日本もじきそういう時代がくる」

結太郎の言葉に、のぶの瞳はキラキラと輝いた。

「女子も遠慮せんと、大志を抱け」

「はい……!」

「じゃ、行ってくる」

「お気をつけて」

戸口に向かう結太郎に、羽多子がソフト帽を渡した。

「お父ちゃん、うちも!」

すっかり元気になったのぶは急いで下駄を履き、結太郎のあとを追いかけた。

御免与駅のベンチで結太郎とのぶは汽車を待っていた。

「お父ちゃん、うちの夢ってなんやろう」

「それは、ゆっくり見つけたらえい。見つかったら、思いきり突っ走ればえい。のぶは足が速いき、いつでも間に合う」

「うち、お父ちゃん好きや……世界一大好きや」

のぶは結太郎に（A）身を寄せた。駅長のアナウンスがホームに響き、結太郎はトランクを手に立ち上がった。

「ほいたら、行ってくるき」

ホームに向かって敬礼する駅長を見て、のぶもまねをして敬礼をした。

「行つてらっしゃい！」

結太郎は愛おしげに微笑み、自分のソフト帽をのぶの頭に（B）載せると改札口に向かって歩き出した。のぶはソフト帽を思い切り振って、大きな声で叫んだ。

「お父ちゃん、早うもってきてよー！」

結太郎は優しく微笑み、高知行きの汽車に乗った。遠ざかる汽車の音を聞きながら、のぶはいつまでも手を振った。

それからひと月が経った。柳井医院の診察室で寛がカルテの整理をしていると、突然電話のベルが鳴った。

「もしもし、柳井医院です。……はい。朝田結太郎さんはうちの患者ですが……」

その知らせはあまりにも突然だった。寛は受話器を握りしめたまま立ち尽くし、頭の中を必死で整理した。夜も深い時間、寛はそのまま医院を飛び出し、朝田家へと走った。

昭和二年十月。出張帰りの船の上で心臓発作を起こし、帰らぬ人となった朝田結太郎の葬儀が行われた。田んぼの一本道を天寶和尚が経を唱えながら先頭を歩き、そのあとを朝田家の人々が続いた。澄み切った秋空の下、悲しみに沈む葬列がゆっくりと進む。前を向く気丈に歩く羽多子の後ろで、釜次とくらは目に涙を浮かべていた。

寛と嵩は少し離れたところから葬列を見送り、静かに手を合わせた。のぶは泣けなかった。大好きなお父ちゃんが死んだのに、なぜ

か一粒の涙も出ないのだ。まるで心がカチコチに固まってしまったようだった。

夜、嵩と寛は縁側に腰を下ろし、並んで月を見ていた。

「……伯父さん……ずっと考えてるけど、分からなくて。どうしたら、のぶちゃんに元気になってももらえるのかな。ぼくにできることはないのかな」

「そればかりは、医者にも治せん。時という薬しかない。でも、それが生きちゆうことやないかえ」

「生きちゆうこと？」

「生きちゆうき、悲しいがや。生きちゆうき、苦しいがや」

しんと静まり返った夜空に浮かぶ満月が、二人をほのかに照らした。

「生きちゆうき、いつか元気になって、きつと笑える日が来るがや」

寛の言葉は、嵩の心に（C）染み入った。悲しくても苦しくても、生きていればいつか笑える日が来る。それは本当のことのようない気がした。

明るる日、朝田石材店では釜次と豪が墓石に名前を彫っていた。結太郎の「結」の字を彫ろうとした瞬間、釜次の手が止まった。

「……息子の墓石を彫ることになるらあて、夢にも思わなかった……」

釜次の目に涙が滲み、石刀を持つ手は微かに震えていた。くらも上の空のまま、押し黙っている。すっかり光をなくしてしまった洞窟のように、重苦しい悲しみだけが朝田家を覆っていた。のぶは居間の奥に座り込み、たんすの上に置かれた結太郎のソフト帽をじっと見上げていた。

のぶは家を飛び出し、商店街を全速力で駆けた。全身の力を振り絞り、足の向く方向へひたすら走っていく。目にも止まらぬ速さで商店街を抜け、気がついたら田んぼ道を駆けていた。あまりの勢いに下駄の鼻緒がちぎれたが、壊れた下駄を脱ぎ捨て裸足のまま走り出した。遠くから汽笛の音がする。のぶは駅に向かって走り続けた。

その頃、御免与駅で嵩は駅のスケッチをしていた。ふと顔を上げると、改札口を行き交う乗客の中にのぶの姿を見つけた。のぶは息を切らしながら、辺りをキョロキョロと見回している。

「お父ちゃん……お父ちゃん……」

のぶは必死に結太郎を捜した。一か月前、ここでさよならしたんだ。出張が終われば、お父ちゃんはこの駅に帰ってくる。のぶは人混みの中に父親の姿をいつまでも捜したが、結太郎の姿はどこにもなかった。汽車の音が遠ざかり、ガランとした駅舎で、のぶは一人（D）佇んでいた。

嵩は、呆然と立ち尽くしているのぶのそばに歩み寄り、描き上げたスケッチを差し出した。のぶがスケッチに目を落とすと、あの日の光景が描かれていた。駅で結太郎からソフト帽をかぶせてもらい、うれしそうに甘えるのぶの姿が、まるで記憶から切り出したかのように紙の上によりがえっていた。その絵を見て、<sup>4</sup>のぶの瞳から涙があふれ出した。結太郎の悲報を聞いたあの夜からずっと凍りついていた心が、初めて息を吹き返したようだった。のぶは初めて泣いた。あとからあとから涙があふれ、体が空っぽになるまで泣いた。

（中園 ミホ『NHK連続テレビ小説 あんぱん』による）

【語注】

（注1）ソフト帽 … 柔らかいフェルトの男子用帽子。山の中央部に溝を作ってかぶる。中折れ帽子。

（注2）豪 … 釜次の弟子。朝田石材店で働く。

問一 ―― 部 a・b の本文中における意味として最もふさわしいものを、次の各群の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

a 「気丈に」

- ア くじけそうな状況じょうきょうでも、へこたれず元気に前向きでいること。
- イ その場の雰囲気ふんいきに流されず、自分の意見を最後まで貫くこと。
- ウ 心の悲しみが表に出ないように、気持ちをしつかり持つこと。
- エ 状況にふり回まわされないよう、他人と距離きょりを置こうとすること。
- オ まわりの人たちに頼たよらずに、自分一人だけでやりとげること。

b 「時という薬」

- ア 時間が経たてば人は悲しい出来事をすっかり忘れてしまい、いつのまにかきつと元気になるということ。
- イ 本人がその悲しみを受け入れられるようになるまでは、周囲の人間はそれを待つしかないということ。
- ウ 悲しみは時間とともに必ず解決できる問題なので、時間が解決してくれるまで待てばよいということ。
- エ 周囲の人が無理に励はげますのではなく、本人に気づかれないように助けてあげるほうがよいということ。
- オ 時間を有効に使って、悲しみを乗り越えるための具体的な行動を起こすことが重要であるということ。

問二 (A) (D) に当てはまる語としてふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上用いてはいけません。

- ア ぎゅっと
- イ じんわりと
- ウ そっと
- エ ふらっと
- オ ぽつんと

問三

——部1「のぶは足が速いき、いつでも間に合う」とあるが、ここには結太郎のどのような思いがこめられているか。その思いを説明したものとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 結太郎はのぶの喧嘩を彼女の正義感の強さゆえの行動だと理解し、夢をみつけたときにその正義感を活かせられればどんな困難にもきつと打ち勝てると確信している。

イ 結太郎はのぶが他の姉妹に比べて将来の夢を持てていないことを心配しているが、あせらなくてもいつか夢を見つけさえすれば必ず成し遂げられるとなぐさめている。

ウ 結太郎はのぶの足の速さを誰にも負けない彼女の強みだと考えており、将来はその身体能力を活かした職業について大きな夢をかなえることができると期待している。

エ 結太郎はのぶの信念の強さと行動力を信じており、たとえ今は夢が見つからなくても将来見つかった時に全力で努力すればいつか追いつけると彼女を信頼し励ましている。

オ 結太郎はのぶが喧嘩をしたことで落ち込んでいることを心配し、自分に似た頑固さを肯定しながら彼女が他人に流されず自分の生きる道を見つけることを望んでいる。

問四

——部2「結太郎の『結』の字を彫ろうとした瞬間、釜次の手が止まった」とあるが、この時の釜次の心情を四十字以内で説明しなさい。

問五

——部3「のぶは家を飛び出し、商店街を全速力で駆けた」とあるが、のぶがそうした理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 父の死という現実を前に悲しみをどう表現していいかわからず、ただひたすらに走り続けることでなんとか感情に整理をつけようとしたかったから。

イ 自分が喧嘩をした翌日に父が出張に出たことからおろかな自分のせいで父が死んでしまったと思いこみ、その罪の意識から逃れようとしたから。

ウ 父の死の悲しみからなかなか抜け出せない家族たちに何もできることがない無力な自分が嫌になり、その現実から逃げ出したくなったから。

エ 突然の父の死の知らせに気が動転して今日が父の出張から帰ってくる日だったと思いこみ、駅まで行けば帰ってくる父に会えると期待したから。

オ 父の死という重苦しい悲しみにつつまれた朝田家の中でその現実に向き合うことができず、会えるはずのない父にどうしても会いたくなったから。

問六

——部4「のぶの瞳から涙があふれ出した」とあるが、スケッチを受け取ったのぶは、なぜ涙を流したのか。のぶの心情の変化をふまえ、百字以内で説明しなさい。

## 問七

次の文章は、本文のモデルとなったやなせたかし氏のインタビュー『希望のありか 何のために生まれてきたの?』の一部である。これを読んであとの問いに答えなさい。

——（やなせたかし作詞『手のひらを太陽に』の）一番の歌詞は「ぼくらはみんな生きている、生きているからかなしいんだ」で、二番が「生きているからうれしいんだ」。なぜ「かなしいんだ」が一番になったんですか？

生きてなきゃ、「かなしい」という気持ちになることもないんですね。そして、かなしみがあるから喜びがある。悲喜交交ひきこじょうと言うでしょ。喜悲交交とは言わない。かなしみがあって、喜びがある。

しかし、かなしいっていうのは、ただ涙を流して泣くっていうことではなしに、人生っていうのは一種のかなしみがあるんです。いずれ我々は死ぬ、愛別離苦あいべつりく（注 愛する人との別れによって生じる苦しみ）のこの世界にいるわけなんです。ですから「かなしい」のほうを先にした。それで二番は「うれしい」に。ようは悲喜交交に合わせたんです。

よく質問されますよ、「なんで、生きているのにかなしいんだ」って。死んでしまえば、かなしいもうれしいもないです。生きているから、かなしいの。それから生きているからつらいとか、痛いとか、いろんなことがあるわけ。それは生きている証あかしなんです。ですから喜びよりも、むしろかなしみのほうが強い。だからかなしみを先に持ってきたわけです。

それで、かなしみというのは、ずっと続くわけじゃない。その後には喜びがある。幸福っていうのは、不幸せでなければわからない。不幸せになった時にはじめて、幸福っていうことがわかる。

問

寛は嵩に対して、くく部「生きちゅうき、悲しいがや。生きちゅうき、苦しいがや」と語りました。この言葉は、「ぼくらはみんな生きている」の歌詞が「かなしいんだ」から始まる理由と共通しています。その共通点として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 愛する人との別れの悲しみの経験が生きる意味であり、その経験が人を精神的に成長させることから、苦しみや悲しみは人生の重要な試練である。

イ 人は愛する人との別れから逃れることはできないので、そのつらい現実を受け入れないかぎり残された人生を一人で生きていくことはできない。

ウ 人はいつか必ず死ぬという逃れられない運命を受け入れて心を落ち着かせることではじめて、今生きていることのありがたさを理解することができる。

エ 悲しみや苦しみは人間がこの世で生きていることの証であり、その経験によってその後の日常のささやかな幸せや喜びをより深く感じることができる。

オ 生きている中での悲しみや苦しみは自分自身の生き方や価値観を見つめ直す機会となり、その経験を通して自己を深く理解し高めていくことができる。

問題は次のページに続きます。

### 三 あとの各問いに答えなさい。

i 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「有名な女性の肖像画」という句には、「絵のモデルの）女性が有名である」という解釈と、「この肖像画が有名である」という解釈の両方があります。この曖昧さの原因は、「有名な」という修飾語が「女性」を修飾するのか、それとも「（女性の）肖像画」を修飾するのかというところにあります。

（略）

どちらかというと、「有名な女性」の肖像画、つまり「女性が有名である」という解釈を先に思い浮かべる人が多いようです。ここには、私たちが言葉を理解するときの「癖」が関係しています。私たちには、「新しく耳に入ってきた単語を、それより前の部分と結びつけやすい」という傾向があります。つまり、私たちは「有名な」という部分を聞いたときに、「これは何かを修飾するはずだ。それは何だろう」と予測します。そしてその直後に「女性」という単語が出てきたら、とりあえずこれらをくっつけて「有名な女性」という「かたまり」にするわけです。

（略）

修飾語がどの語を修飾するかという判断は、常識にも左右されます。次の例題を考えてみてください。

例題…①③の各句は、次の（A）①（C）のどのケースに当たるでしょうか。

①美しいギターの音色

②耳に心地よいギターの音色

③高価なギターの音色

（A）——部が「ギター」を修飾しているという解釈しかない。

（B）——部が「（ギターの）音色」を修飾しているという解釈しかない。

（C）——部が「ギター」を修飾しているという解釈と、「（ギターの）音色」を修飾しているという解釈の両方がある。

（川添 愛『世にもあいまいなことばの秘密』による）

問一 本文中の例題の答えは、① (C)、② (B)、③ (A) である。これをふまえて、次の①～③の各句が、(A)～(C) のどのケー

スに当たるかを答えなさい。

① 甘い<sup>あま</sup>リンゴの香り

② 鼻を刺す<sup>さ</sup>ようなリンゴの香り

③ 真っ赤に熟れたリンゴの香り

(A) — 部が「リンゴ」を修飾しているという解釈しかない。

(B) — 部が「(リンゴの) 香り」を修飾しているという解釈しかない。

(C) — 部が「リンゴ」を修飾しているという解釈と、「(リンゴの) 香り」を修飾しているという解釈の両方がある。

問二 下の画像を説明した文を作りなさい。なおあとの条件に従うこと。

【条件】

・ 四十五字以内の一文で作成すること。

・ 語群の言葉を必ず一回はそのままの形で使うこと。

・ 必要に応じて語群以外の言葉を足してもかまわない。

・ ねこは「少年の飼いなこ」であることを明確にせよ。

・ 「少年が座っている」ことと「ねこがねむっている」ことを明確にせよ。

【語群】 飼っている 木 少年 座っている

となり ベンチ ねこ ねむっている



(生成 AI Gemini により作成)

ii 次の文章は十一の文で構成されています。④⑤⑥⑧⑩に入るものとして最もふさわしいものを次のア～オからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

①意識という言葉は、いろいろな意味で使われる。

②歌うときやスポーツをするときに、腹筋を意識しなさいと言われた経験があるかもしれない。

③ここで言う「意識」は、注意を向けるといった意味で使われている。

④

⑤

⑥

⑦注意を向ける意識が「無い」から「無意識」というわけだ。

⑧

⑨病気や事故で倒れた人を見たら、まず呼びかけて、意識があるかどうかを確認するが、これは意識がないと、自分で呼吸ができない状態だったり、心臓が動いていなかったりする可能性が高いからだ。

⑩

⑪医学的な意味で用いる意識は「脳の反応」という意味だが、日常的には、意識は「心」とほぼ同じ意味で使われる。

(渡邊 正峰『意識の不思議』による)

ア 医学的な意味で、意識がないわけではない。

イ 医学的な意味での意識と、日常的に使う用語の意識は大きく違うことがわかるだろう。

ウ 普段は気にしていない腹筋という筋肉を気にかけて、その状態をはっきり感じ取る。

エ また、無意識にお菓子<sup>かし</sup>を食べてしまったというときに使う意識も、注意を向けるという意味で使われている。

オ そうすれば、腹筋の力を上手にコントロールしながら吐く<sup>は</sup>息の量を調節したり、身体の動きに合わせて力をこめたりすることができる。



